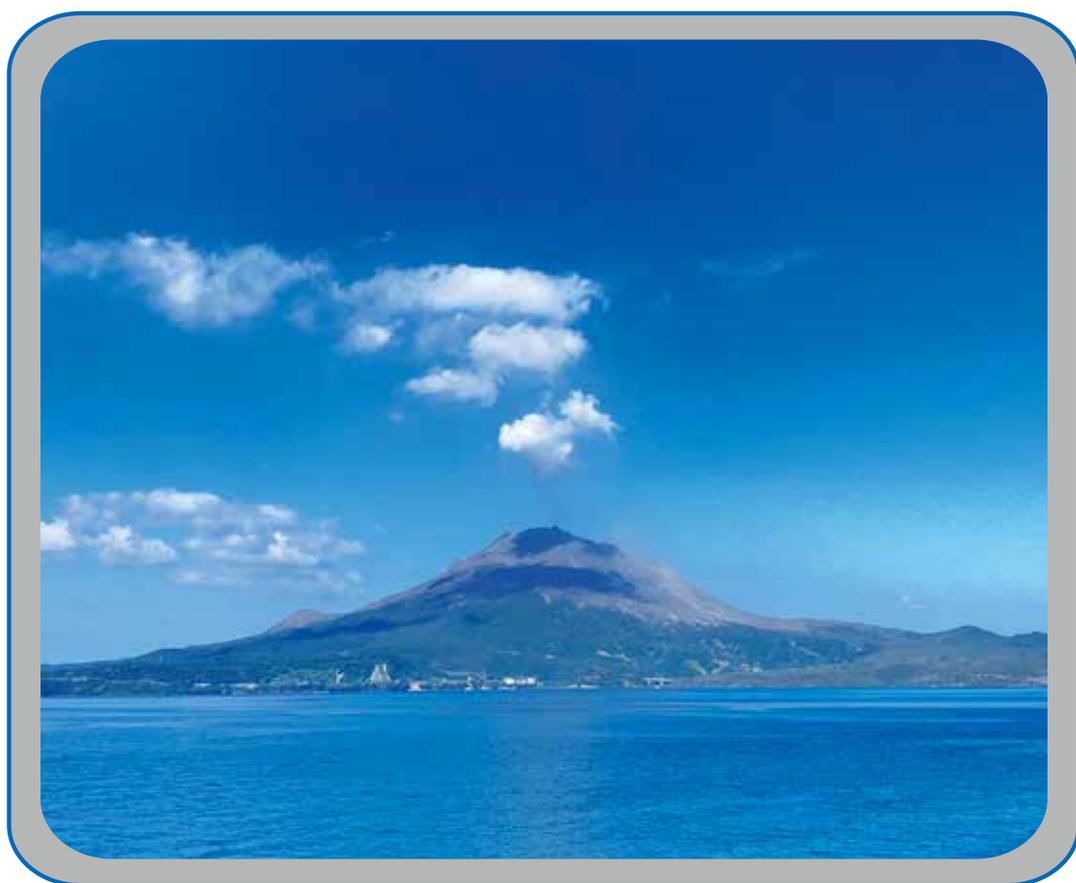


第38号

# さくらしま

2024



鹿児島大学大学院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕  
錦江湾に浮かぶ桜島

# 目

# 次

巻頭言 .....	1
会長挨拶 .....	3
I. 同門会員業績・学会発表 .....	5
II. 教室行事	
1. 共催の講演会 .....	11
2. 第20回 頭頸部外科月間「鼻の日」市民講座 .....	11
3. 第15回 耳鼻咽喉科月間「耳の日」市民講座 .....	12
III. 同門会報告 .....	13
IV. 奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧 .....	14
V. 地域医療報告 .....	15
VI. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴り・補聴器外来 .....	18
VII. 病理集計 .....	20
VIII. 手術実績 .....	21
IX. 諸研究費 .....	27
X. 業 績	
1. 原 著 .....	28
2. 総 説 .....	29
3. その他 .....	30
4. 国内学会発表 .....	31
XI. 医局通信	
1. 新入局員紹介 .....	37
2. 医局人事 .....	39
3. 学会報告	
①第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会 .....	40

②第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 …	40
③第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会 …	41
④第85回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会 ……	42
⑤第38回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会 ……	42
⑥第40回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会 ……	43
⑦第36回日本口腔・咽頭科学会の参加報告 ……	43
⑧第62回日本鼻科学会総会・学術講演会 ……	44
⑨第68回日本音声言語医学会総会・学術講演会 ……	45
⑩第82回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会…	46
⑪第33回日本耳科学会総会・学術講演会 ……	47
⑫第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会…	47
⑬第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会…	48
⑭第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会…	48
⑮第6回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方会…	49
⑯第36回日本喉頭科学会・学術講演会 ……	49
<b>4. 関連病院便り</b>	
①鹿児島医療センター便り ……	50
②鹿児島市立病院便り ……	51
③鹿児島厚生連病院便り ……	52
④いまきいれ総合病院便り ……	52
⑤霧島市立医師会医療センター便り ……	53
⑥天辰病院便り ……	54
<b>XII. 関連病院案内</b> ……	55
<b>XIII. 海外同門会名簿</b> ……	58
<b>XIV. 自治医大研修生</b> ……	62
<b>同門会会則</b> ……	64
<b>編集後記</b> ……	66

## 巻 頭 言

山 下 勝

鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会の先生方、平素よりご指導ならびに温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年元日には震度7を記録する能登半島地震が発災し、大きな被害が生じました。被災された皆様、関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

令和5年5月8日には新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行し、徐々に生活が元に戻りつつあります。令和6年4月からは治療薬の公費負担も終了し、通常の医療体制へと移行しています。全国学会においても現地開催のみで行われる形式のものも増えてきています。

鹿児島大学病院においても、令和5年度は令和4年度同様に感染の影響などを受け、手術や入院にさまざまな制限が生じました。当科の入院患者数および手術件数も減少し、私の着任後最低値となりましたが、診療報酬稼働額は高水準を維持できています。令和6年5月末から6月初旬の時点においても、鹿児島県における新型コロナウイルスの感染者数は、47都道府県中2位という高い水準で推移しています。幸いにも院内感染は発生していませんが、職員の感染は散発的にみられており、まだまだ油断が出来ない状況です。

鹿児島大学病院は昭和49年9月に鹿児島大学医学部附属病院として鹿児島市桜ヶ丘に移転し、今年で50年が経過します。再整備は平成19年から始まりました。令和6年4月には「さくらびあ」というアメニティ施設が稼働し、令和6年9月のA棟稼働をもって再整備が完了します。鹿児島大学病院は「21世紀に輝くヒューマントータルケア病院」を目指し、「新生。次の50年へ」をスローガンに掲げ、前に進んでいきます。

令和6年度は働き方改革、職員の賃上げや医療DXを中核とした診療報酬改定、止まらない物価上昇など、医療を取り巻く環境にも大きな変化が予想されますが、臨機応変に対応してまいりたいと思います。

令和6年4月には聖マリアンナ医科大学から大原章裕先生を助教として、藤崎亮先生、矢野雅己先生を新専攻医として教室にお迎えしました。また、大学院には松崎尚寛先生が入学しました。新しい仲間が触媒となり、診療・研究・教育の各分野においてさらなる化学反応が起こることを期待しています。これからも人材育成に力を注いでまいります。

ChatGPTなどの生成AIに「耳鼻咽喉科医になる魅力」について聞いてみました。「多様な専門領域、即効性のある治療、手術手技の習得と実践、多様な年齢の患者層、新規



の治療法や技術，患者とのコミュニケーション」などを提示し，「耳鼻咽喉科医になることは，多様な知識と技術を習得し，患者の生活の質を直接的に向上させる役割を担うことができる非常にやりがいのあるキャリアです。医師としての成長と満足感を大いに満たすものとなるでしょう。」と締めくくります。この内容で，医学生や初期研修医のハートを揺さぶりたいと思っていますが，まだまだ努力が必要だと日々実感しています。

同門会の先生方には，是非とも大学病院や教室にもお気軽に足をお運びいただき，これまでと変わらぬ教室ならびに教室員へのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に先生方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 会長挨拶

森 山 一 郎

「認知症患者を収容する部屋の片隅で、1人の女性が叫んで暴れている。まわりで2人の看護師が動き回り、女性からの攻撃を必死に避けて、患者が車椅子から落ちないように抑え込んでいる。看護師たちを試みれば、ケスレス夫人の包帯を巻きなおさなければいけないのはたしかだ。夫人の右腕の傷は化膿している。叫ぶのをやめたと思ったら、看護師たちに噛みつこうとしている。何が自分をそうさせたかわからないけど、気づくと私は夫人の前に行っている。そして一言も喋らず、その場に座って、彼女のためにチェロでシューベルトのピアノ三重奏曲第2番作品100のアンダンテのテーマを弾いている。ほんの3秒、おそらく2小節を演奏したあたりで、彼女の腕の力が抜け、突然だらりとさがる。叫び声は止まり、部屋は再び静かになる。その時彼女の顔を見ると、目は驚きに満ち、唇にはかすかな笑みが浮かんでいる。」(シューベルトの手当て：クレール・オパール著)



2024年1月20日に城山ホテルで4年ぶりに完全対面方式での同門会が開催された。総会の後、同門会と日耳鼻鹿児島地方部会の合同学術講演会があり、特別講演1「上気道炎に関する粘膜ワクチン療法の現状と展望」を黒野祐一名誉教授に、特別講演2「留意すべき気道疾患とその対応について」を山下勝教授にそれぞれ講演していただいた。3年前に退

任された黒野先生の退任記念講演と同時期に就任された山下先生の就任記念講演がやっと実現したことになる。そして、お二人の先生を祝福する祝賀会も開くことができたのは大変な喜びであった。その席で、会長である小生の独断で選んだ記念品を贈呈した。山下勝教授には桜島とミヤマツツジを彫った「マイセンのグラス」と、黒野祐一名誉教授には薩摩切子の「思無邪」とした。記念品の選考基準はご想像にお任せする。さらに、その歓迎の祝賀会を盛り上げる工夫も小生に決めさせてもらった。久しぶりに顔を合わせて集まる会で生の演奏を提供しようと思ったのは、最初に引用した「シューベルトの手当て」に感動したためである。小生と仲の良い演奏家3人に相談したところ快く引き受けていただいた。曲目は硬軟織り交ぜたもので、余興として「G線上のアリア」をも

じった「扁桃腺上のアリア」を演奏したときは、更に楽しく盛り上がった<sup>1)2)</sup>。



ヒトの脳は「変動するもの」に敏感に反応する性質がある。我々の体は約37兆個の細胞からなるが、その細胞はすべて分子で構成されている。そしてその分子は、原子およびさらに小さな素粒子から作られており、絶えず揺らぐことによって存在している。つまり、小川のせせらぎの揺らぐ音というのは、無条件に心が惹かれるものなのである。その半

分子測できて半分子測できない揺らぎを  $1/f$  の揺らぎというが、まさに音楽の本質についており、シューベルトのピアノ三重奏曲第2番が認知症の患者の琴線に触れ、急におとなしくなったのであろう。その生の演奏を、普段あまり聴く機会の少ない、同門会に参加された多忙な会員の皆さんに是非聴いてもらいたく、今回企画した次第である。結句、成功裏に終わったものと自負している。

さて、2024年の日本列島は元旦の能登半島地震と2日の日航機事故で幕が開けた。まったく予想だにできなかった出来事である。想定外を予想しろというのは無理難題である。ではどうすればよいのだろうか。 $1/f$  の揺らぎの音楽を聴いて、常に平常心でいることが、想定外でもパニックにならず落ち着いた行動をとることができる王道であると思う。今年一年皆様が平穏な生活を送り社会が安寧なることを祈りつつ、ここに筆を擱くことにする。

<sup>1)</sup> 演奏曲目は、春の声（ヨハン・シュトラウス2世）、Another sky（ANA 機内テーマ曲）、I will be there with you（JAL 機内テーマ曲）、G 線上のアリア（ヨハン・セバスティアン・バッハ）をもじった扁桃腺上のアリア、せごどんのテーマ曲（NHK 大河ドラマ）。

<sup>2)</sup> 演奏家は、桃坂寛子（ピアノ）、今林吹音（ヴァイオリン）、茂谷パーネル優子（ソプラノ）。

鹿児島大学名誉教授 黒野 祐一

## <総説>

黒野祐一：各種外用薬と注意すべき副作用「含嗽薬」. JONNS 2024; 40(1): 43-45.

黒野祐一：上気道粘膜免疫および粘膜ワクチンの現状と展望. 耳喉頭頸 2024; 96(1): 74-83.

## <原著論文>

黒野祐一, 井内寛之, 山下 勝：2-メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリンポリマーの新規含嗽薬としての有用性. 日耳鼻会報 2023; 126(5): 722-729.

Tomohiro Jimura, Yuichi Kurono, Takashi Hirano, Masaki Kawabata, Masaru Yamashita. Application of phosphorylcholine derivative as mucosal adjuvant enhancing mucosal immune responses in the upper respiratory tract. Auris Nasus Larynx 2024; 51: 221-229.

## <学会>

令和6年1月20日

令和6年同門会・地方部会合同学術講演会 特別講演  
「上気道炎症に対する粘膜ワクチン療法の現状と展望」  
黒野祐一

## <講演>

令和5年9月27日

セオリア Web セミナー  
「鼻ネブライザー療法と新型コロナウイルス感染症－新たなステージへ－」  
鹿児島天文館ビジョンホール5F-B ホールより配信  
主催：セオリアファーマ（株）、千寿製薬（株）

令和6年2月9日

ラスビック発売3周年記念耳鼻科感染症セミナー in 静岡

「耳鼻咽喉科感染症に対するニューキノロン系抗菌薬の有用性」  
かごしま空港ホテル2階 梅の間 より WEB 配信  
主催：杏林製薬（株）

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

<論 文>

内菌明裕：「頭頸部領域の疼痛症例に対する漢方方剤の外来即時内服の有用性について  
の検討」 痛みと漢方 32: 130-136, 2023.

<学会・講演会>

令和5年6月18日（福岡国際会議場）

第73回日本東洋医学会総会 シンポジウム19

「めまい」や「耳鳴」だけじゃない～耳鼻咽喉科領域は漢方療法の一大フィールド～  
座長兼口演 「化膿性病変に排膿散及湯が有効」

令和6年2月11日 ハイブリッド開催（鹿児島大学）

令和5年度日本東洋医学会鹿児島県地方部会

テーマ別検討会 COVID 後遺症に対する漢方療法

口演 「COVID19感染後の嗅覚異常に対する漢方治療」

令和6年3月17日 WEB開催（東京）

第65回漢方家庭医講習会

「口腔乾燥症を考える～耳鼻咽喉科の立場から～」

2023年は、個人的には、かなりつらい1年でした。6月の日本東洋医学会総会学術総会が福岡で開催されて、耳鼻咽喉科領域のシンポジウムを行いました。私は、座長兼演者だったのですが、半年前ほどから、演者を選定して、気心の知れている4人に声かけて準備しました。幸いにしてシンポジウムは盛会で終えることができました。

ところが、その一ヶ月後に、シンポジストのひとりだった大阪のエキスパートが心筋梗塞で急逝してしまったのです。訃報を受けたときには奈落のそこに突き落とされた気持ちでした。私より7歳も若く、2024年度の大阪で開催される東洋医学科総会の広報部長を務めていました。あまりの激務に身体が悲鳴を上げていたのかも知れません。

2024年4月から働き方改革の法律が施行されます。医師の世界も例外ではありませんが、高次機能病院のほとんどは、残業規制の履行はきわめて困難として、残業時間の上限を上げてもらえるような申請を厚労省に行うようです。

医学部の定員を減らして人材確保の道を閉ざしておきながら、残業はするなと言うやり方。結局は、医師に負担がかかる事になります。それでいて、労働者を海外から取り込もうとするやり方は如何なものでしょうか？

当直明けも朝から勤務というのが当たり前だった時代は、過去のものとするべきです。大学病院をはじめとする中小の基幹病院が機能しなくなれば、医療の先行きはどのようなのでしょうか？「小さな政府路線」「財政均衡主義」を改め、今こそ大規模な財政出動を行い、医療の危機管理を行っていくべきではないでしょうか？

## うへの耳鼻咽喉科クリニック 上野員義

### <総説>

特集 診療所マニュアルー開設から長期運営まで

診療所の開設

経営理念の策定

JOHNS 39(8) : 819-820, 2023

JOHNS 特集●診療所マニュアルー開設から長期運営まで

診療所の開設

経営理念の策定

上野員義 (Kazuyoshi Ueno)

Key words : 従業員の幸せ, 強烈な願望, 利他の心

### はじめに

自己資金ゼロからのスタートで、この2023年で診療所開設（開業）22年目を迎えている。勤務医・研究職からの転職にあたり、経営理念を学ぶべく、盛和塾に入塾した。

盛和塾は、全国の中小企業家が経営理念を学ぶ場として、稲盛和夫氏が主宰していた（2019年に閉塾）。耳鼻咽喉科診療所も立派な「中小企業」であり、経営が成り立たないことでは、社会に貢献できないことは、「中小企業」と同一であるとの思いで入塾し、他業種の経営者の方々と経営理念の研鑽に励むことにした。盛和塾の塾長例会や稲

盛氏の多くの書籍等<sup>1)~3)</sup>で説かれた、経営者として貫くべきことの経営指針をもとに、これまでの私の経験、反省を踏まえ、診療所開設から長期運営に関する私なりの経営理念を述べたい。

### 事業の目的、意義を明確にする

#### 一公明正大で大義名分のある高い目的をたてる

医師として、自分の持てる最大限の能力を発揮し、目の前の患者さんを「ひたすら」大事にすることで、地域医療に貢献することは、診療所経営理念の原点です。しかし、最も大事なミッションとして、「全従業員の物心両面の幸福を追求すること」を掲げてきた。「従業員の幸せを実現する」という揺るぎない信念を持っていると、従業員も、それに応えるような努力を払ってきてくれた。その信念があると、従業員への「叱り」や指導も揺るぎなく行えた。

クリニックの明るさ、訪れることへの安心感は、スタッフの明るさ、働くことへの充実感・安心感の反映であり、立派な地域社会貢献へと連なると考える。常勤スタッフ4名でスタートした診療所だったが、開業当初からの2名をいれ現在常勤10名で、「従業員の幸せ」を第一義に現在もスタッフ共々奮闘している。花粉症やインフルエンザ、近年ではコロナ対応で忙しさが一段落する年度末には、夏・冬の賞与とは別に従業員全員に均等に現金で手当金を支給している。

### 具体的な目標を立てる

一月次や日次の目標にまで落とし込む

一立てた目標は常に従業員と共有する

診察室の器具洗い場に大きな無地の大きめのカレンダーを掲げている。当然スタッフは毎日眺めるわけだが、日にちの下の空白に前日、翌日の予想患者数を点線で記入していた。自分の予想数より密かに2割増しで書くことにしていた。診療終了後、予想数の下に実線で実数を声に出しながら書いていた。スタッフ全員が、受診者数の流れがリアルタイムで分かり、日ごとのモチベーション・受診者数の増加にも繋がっていった。

### 強烈な願望を心に抱く

一潜在意識に透徹するほどの強く持続した願望を持つ

受診者数の増加に伴い、駐車場が手狭になり、目前の土地（160坪）の重要性が増し

てきた。何度となく不動産業者に取引を依頼しても打開策は得られなかったが、患者さんサービスに繋がると、強烈に願っていた。ある日、ひらめきがあり、業者に尋ねると、一気に取引が成立した。患者さんサービスに繋がるという強烈な願望を抱き続けたことへの偉大な天の力（他力）のお蔭さまと思っている。

### 誰にも負けない努力をする

#### —地味な仕事を一步一步堅実に、弛まぬ努力を続ける

耳鼻咽喉科診療の特殊性・利点は、多様な各種処置にともない、他科には無い臨床的即効性である。勤務医時代には、退屈に思われた処置も、個々の患者さんの特性にあわせ、地味にひたすら、患者さんの満足度を高めるための工夫、努力していると、患者さんに感謝されることが多くなり、日々のモチベーションともなり、再診率増加につながってきた。これは、One to One マーケティングの経営理念にも通ずる。

### 思いやりの心で誠実に

#### —「利他の心」で診療，経営する

新規患者さんを獲得することも重要だが、特に再び訪れてくれた患者さんや、家族・知人を紹介してくれたスタッフに、まずは「感謝して」、誠実に診るように心がけてきた。特にスタッフの紹介は、誠実、確実な診療の証として嬉しかった。そして、5人でも10人でも従業員を雇用していることは、その家族の人達を含めた多くの人々の生活を守り、従業員が喜んでもらえるように努めることが「利他行」となり、自らの繁栄に繋がると思っている。

### おわりに

以上、盛和塾で学び、実践してきたことの要点を述べたが、最後に自分なりに誇れて、最高の経営効果だったと確信していることを紹介したい。それは、クリニック前の歩道の「ごみ拾い&掃除」です。クリニック前の歩道の一角が、地域のゴミステーションである。開業以来、22年間、診療前に休むことなく毎朝、歩道のゴミ拾い、ゴミステーションの掃除を行ってきた。明るく挨拶を交わしながら、地域の皆様と交流でき、「運」を拾ってきたと確信している。

文献

- 1) 稲盛和夫：経営12カ条 経営者として貫くべきこと，日本経済新聞出版，東京，2022
- 2) 稲盛和夫：生き方 人間として一番大切なこと，サンマーク出版，東京，2004
- 3) 稲盛和夫：心，人生を意のままにする力，サンマーク出版，東京，2019

医療法人エターナルふくい耳鼻咽喉科クリニック 福 岩 達 哉

<総 説>

福岩達哉：「コロナ禍における安全かつ効果的なエアロゾル療法の実践」  
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌 2023年3巻3号 p. 79-87

<学 会>

令和5年4月13日（和歌山）  
第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会  
シンポジウム1 「これからの、エアロゾル吸入療法！」  
福岩達哉 「コロナ禍における安全かつ効果的なエアロゾル療法の実践」

### 1. 共催の講演会

第124回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 令和6年2月8日（ハイブリッド開催）

特別講演：「鼻炎治療の Pitfall - 高齢者と花粉食物アレルギー症候群 -」

北海道大学大学院医歯学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

准教授 中丸 裕爾 先生

第1回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 鹿児島県地方部会 臨床セミナー

令和6年2月15日（ハイブリッド開催）

特別講演：「治療前から始まっている好酸球性副鼻腔炎のマネジメント」

島根大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

教授 坂本 達則 先生

### 2. 第20回 頭頸部外科月間「鼻の日」市民講座

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では2021年より毎年7月1日～31日を頭頸部外科月間とし、頭頸部がんに関するさまざまな啓発活動に努めています。当教室では以下内容の講演を行い多数のご参加を頂きました。

ご協力頂きました方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

日時：令和5年7月22日（土）

場所：プラザN 4階ヴァリエホール

講演内容：

司会 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川島 雅樹

#### 1. 頭頸部がんってどのような病気？

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 久徳 貴之

#### 2. 知りたい！鼻のしくみと病気 ～原因から治療まで～

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宮本 佑美

文責：川島雅樹

### 3. 第15回 耳鼻咽喉科月間「耳の日」市民講座

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では2022年より毎年3月1日～31日を耳鼻咽喉科月間とし、耳鼻咽喉科に関するさまざまな啓発活動に努めています。当教室では以下内容の講演を行い多数のご参加を頂きました。

ご協力頂きました方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

日時：令和6年3月2日(土)

場所：プラザN 4階ヴァリエホール

講演内容：

司会 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川畠 雅樹

#### 1. 耳寄りな耳の話

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 喜山 敏志

#### 2. 嚥下のしくみ

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山下 勝

文責：川畠雅樹

## 令和6年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会

令和6年同門会は、長らく続いたコロナ禍の影響を乗り越え、1月20日に城山ホテル鹿児島で現地での同門会を実施いたしました。この機会を通じて、多くの同門会員と再会し、有意義なひとときを過ごすことができました。現地参加者は31名で、本年の新入会員として、後期研修医の竹元尊徳先生と、今給黎総合病院に勤務された永田圭先生を迎え入れました。同門会にとって新入会員を迎え入れられて非常に喜ばしいことでした。

学術講演会では特別講演1として黒野名誉教授が「上気道炎症に対する粘膜ワクチン療法の現状と展望」と題して講演し、退職後も研究と診療に情熱を注ぎ、ますます活躍されている姿勢を示しました。また、特別講演2として山下勝教授が「留意すべき気道疾患とその対応について」と題して講演し、山下教授就任後の3年間の当科の進展と、鹿児島県の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療の発展に向けた意欲的な姿勢を熱く語られました。

学術講演会の後には、コロナの影響で開催できなかった山下教授の教授就任3周年記念と、黒野名誉教授の退職記念祝賀会をようやく開催できました。同門会員からの感謝と祝福の言葉が飛び交い、盛大な祝賀会を催すことができました。

(文責：大堀純一郎)



令和6年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 令和6年1月20日 於：城山ホテル鹿児島

### 奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室への多数のご寄附を賜りまして、心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、教室の研究や後進の育成の為に有意義に活用させていただきます。

今後とも教室へのご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(敬称略, 五十音順)

#### 【ご芳名のみ掲載希望の先生方】

石川 勉	伊東 祐久	岩坪 哲治	岩元 正広	上野 員義
牛飼 雅人	江川 雅彦	大野 郁夫	大野 文夫	大堀純一郎
川島 雅樹	黒野 祐一	河野もと子	児玉 公彦	鈴木 晴博
関 大八郎	高木 茂	竹元 尊徳	豎山 俊郎	谷本洋一郎
田淵みな子	鶴丸 浩士	出口 浩二	徳重栄一郎	西園 浩文
橋本 典子	花牟禮 豊	濱崎喜與志	林 多聞	原田みずえ
平瀬 博之	深水 浩三	福岩 達哉	松根 彰志	森園 健介
宮之原郁代	宮本 佑美	山下 勝	山本 誠	吉福 孝介
吉松 誠芳				

#### 【掲載を希望されない先生方】

9名

#### 【掲載希望の関連病院】

鹿児島厚生連病院

## 【対象地域】

阿久根市，屋久島町，徳之島町，瀬戸内町，曾於市，喜界島，大崎町，西之表市，輝北地区

## 【受診者数】

小学校 4,524人（男性2,326人，女性2,198人），中学校 1,906人（男性935人，女971人）

## 【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔湾曲症，アレルギー性鼻炎，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大

## 【結果】

小学校および中学校の疾患別有病率を示す。アレルギー性鼻炎，扁桃肥大，耳垢栓塞が多い結果となった。（図1）扁桃肥大のお有病率は小学校と中学校では差がある結果であった。

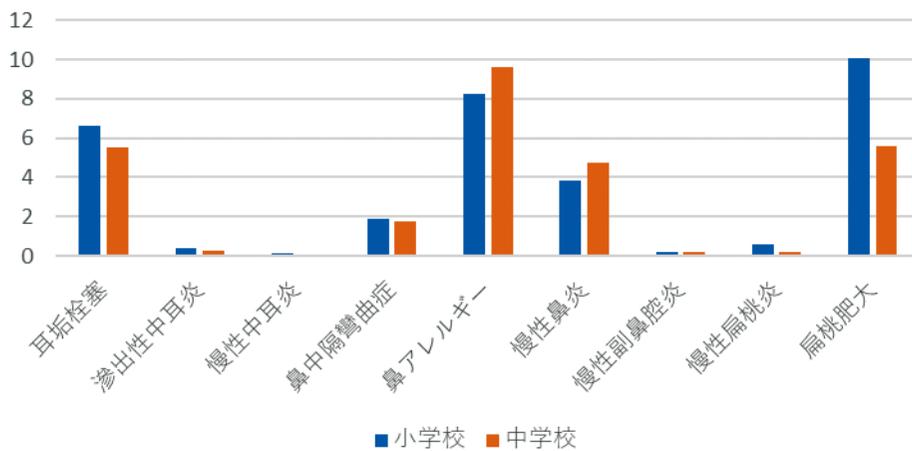


図1 疾患別の有病率

この3つの疾患の学年別有病率は図2のとおりであり、扁桃肥大は学年が上がるごとに減少傾向であることを確認した。

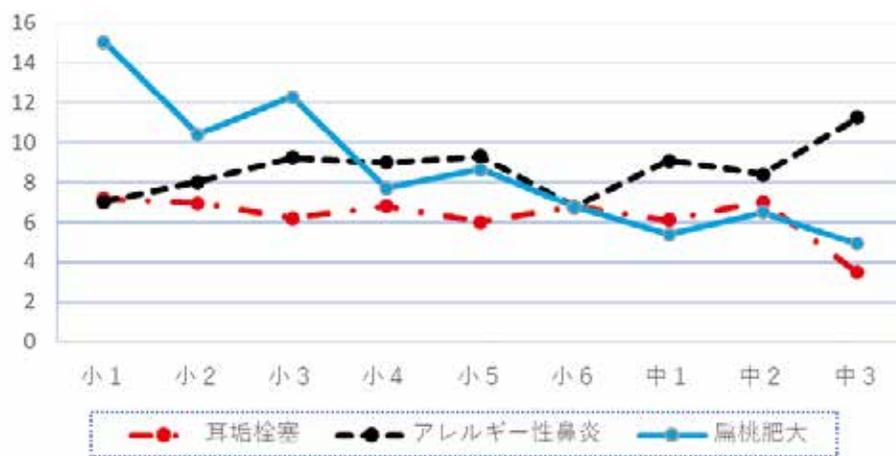


図2. 学年別有病率

最後に部位別有病率は以下の図3-5のとおりである。上にあげた3つ以外の疾患で学年によって有病率が変化する傾向は、明らかには見られなかった。

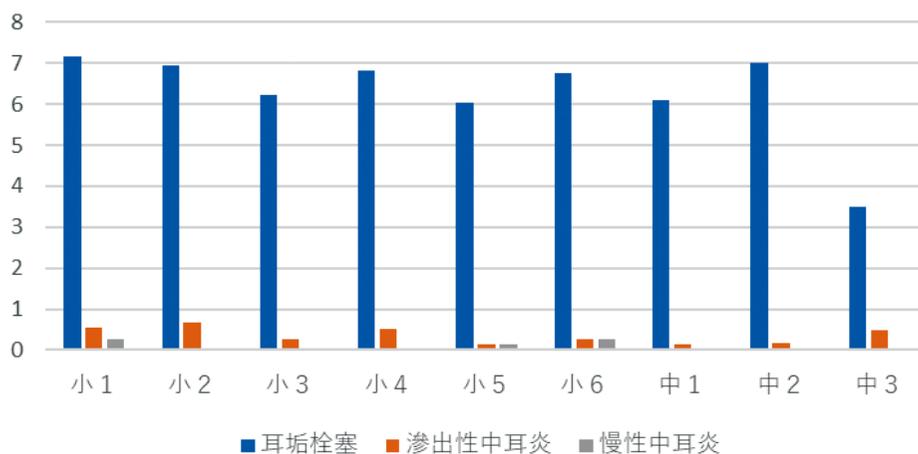


図3. 学年別耳疾患有病率

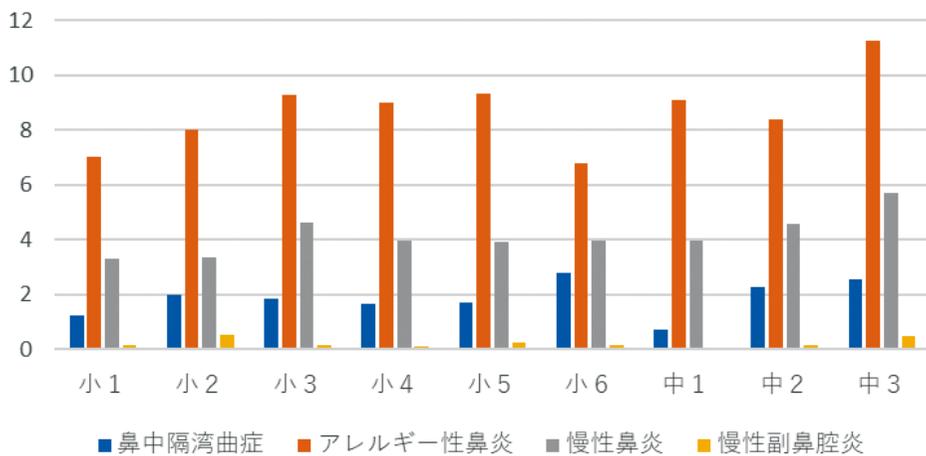


図4. 学年別鼻疾患有病率

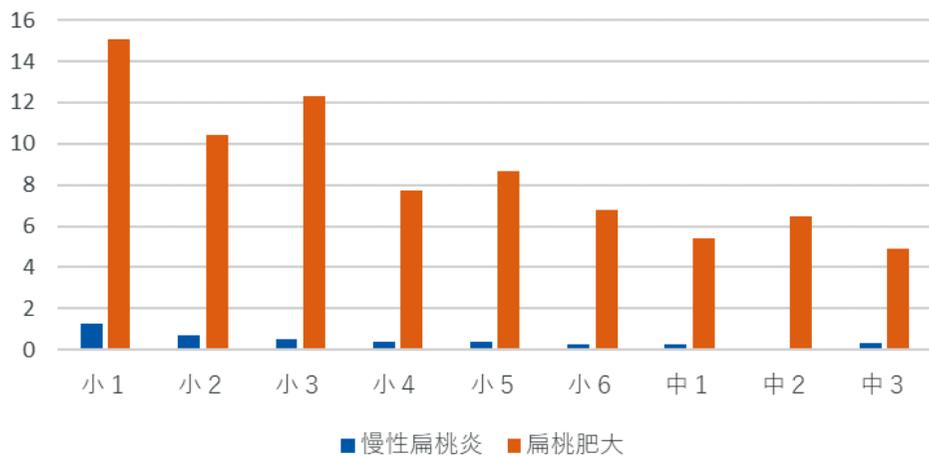


図5. 学年別扁桃疾患有病率

## 難聴・耳鳴り・補聴器外来

宮之原 郁 代

平素より多くの貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。当外来では例年に引き続き、小児・成人難聴の精査、難聴の遺伝学的検査、人工内耳候補者選定、補聴器フィッティング、TRT療法、めまいの精査・リハビリ等をおこなっております。過去5年間の各種検査数について表1に示しました。本年の傾向としては、補聴器フィッティング、耳鳴り外来新患数は昨年と変化なく、難聴の遺伝学的検査は増加がみられ、前庭機能検査、CORの件数はやや増加、造影3TMRIによる内リンパ水腫撮影は減少し、ABR件数は大きな変化なく推移しました。

難聴に関しては、認知症との関連が明らかになってきたこと、また、難聴者が誰一人取り残されず、生き生きと豊かに暮らすことのできる社会の実現に向けて「Japan Hearing Vision」が提言され、これに沿って、2020年より政府の取り組みが進んできたこともあり、超高齢社会の中での難聴対策の重要性が、以前にも増して高まってきました。大学病院では加齢性難聴の患者さんの補聴器フィッティングは少なく、このようなかたはむしろ、地域の先生方のところをまず受診され、ご相談されると思われます。是非、積極的な補聴をすすめて頂ければと思います。難聴の遺伝学的検査に関しては、2022年9月に、保険診療での解析対象遺伝子ならびに変異が拡大し、先天性難聴に関して50遺伝子1135変異のスクリーニング検査が可能になりました。実際に、診断が確定する例も以前より増えてきています。また、今年度も引き続き、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性聴覚障害に関する調査研究班（研究代表者 宇佐美真一）」に参加しています。現在、重点的に、若年発症型両側性感音難聴、アッシャー症候群、BOR（鰓耳腎）症候群、ワーデンブルグ症候群、ならびに遺伝性難聴全般について疫学研究を行っています。いずれも希少疾患で、症例集積に苦心しているところです。つきましては、これまで同様に患者様のご紹介につきご高配頂けましたら幸いです。

造影3TMRIによる内リンパ水腫撮影（2022年2月～）は、今年度はやや症例数減少でしたが、現在も引き続き症例を集積中です。精査をご希望の患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介頂けますと幸いです。2023年10月より、外来診療にリハビリテーション部門のST1名が、加わりましたので、現在の体制を維持しつつ、聴覚・平衡覚機能評価、リハビリ指導について、これまでよりも迅速に対処していけるのでは、と期待しているところです。引き続き幅広い年齢層の聴覚障害、平衡障害に対応していけるよう研鑽していきたいと思っております。

表 1

	ABR	補聴器 外来	耳鳴外来 (TRT療法)	難聴の遺伝 学的検査	前庭機能 検査	COR	3TMRI 内リンパ 水腫撮影
2019年	92	31	5	11(6)	60	26	
2020年	91	27	5	19(12)	39	37	
2021年	95	28	14	7(4)	46	39	
2022年	96	21	10	23(11)	42	31	28
2023年	97	22	10	33(12)	49	39	10

\* 補聴器, 耳鳴外来, 難聴の遺伝学的検査は新患者

\* 遺伝学的検査 ( ) 内は家系数

## VII. 病理集計

病理集計  
 外来 423  
 入院 361  
 総施行件数 784  
 2023年1-12月

部位	悪性	件	良性	件
外耳・中耳	SCC	0	cholesteatoma	35
	adenoid cystic carcinoma	1		
鼻 / 副鼻腔	SCC	5	inverted papilloma	4
	DLBCL	4	hemangioma	2
	Undifferentiated carcinoma	1		
	malignant melanoma	1		
	mucoepidermoid carcinoma	1		
口腔・舌	SCC	29	squamous cell papilloma	3
	DLBCL	1	lymphangioma	2
上咽頭	SCC	3	squamous cell papilloma	2
	DLBCL	1	oncocyoma	1
	NK/Tcell lymphoma	1		
中咽頭	SCC	24	squamous papilloma	4
	DLBCL	5	pleomorphic adenoma	1
	ATL	3		
下咽頭	SCC	27	squamous papilloma	1
喉頭	SCC	18	laryngeal nodule	12
			squamous cell papilloma	3
			laryngeal cyst	2
			laryngeal polyp	1
			amyloidosis	1
			fungal infection	1
耳下腺	SCC	3	warthin tumor	7
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	pleomorphic adenoma	5
	DLBCL	1	basal cell adenoma	4
	secretory carcinoma	1	myoepithelioma	1
			lymphoepithelial cyst	2
顎下腺			pleomorphic adenoma	4
			sialolith	5
			sialolith with IgG4	1
小唾液腺			chronic sialadenitis with SS	5
甲状腺	papillary carcinoma	15	adenomatous goiter	2
	follicular carcinoma	4	follicular adenoma	2
	DLBCL	1		
頸部	metastasis of SCC	4	lipoma	1
	Tcell lymphoma	2	thyroglossal duct cyst	4
	metastasis of carcinoma	13	branchial cyst	2
	Hodgkin lymphoma	1	schwannoma	2
	paraganglioma	1	lymphoepithelial cyst	2
			pleomorphic adenoma	1
			IgG4 related disease	1
			kimura disease	1
			epidermal cyst	1
			desmoid fibromatosis	1
			angiomatosis	1

## 鹿児島医療センター

手術名	件数
耳科手術	86
鼓室形成術	20
鼓膜チューブ挿入術	13
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	6
先天性耳瘻管摘出術	6
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	10
乳突削開術	11
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	5
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	15
鼻科手術	332
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	186
鼻中隔矯正術	63
鼻甲介切除術	80
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	1
その他の鼻科手術	2
口腔咽喉頭手術	317
扁桃摘出術	253
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	64
口蓋垂・軟口蓋形成術	2
舌・口腔良性腫瘍摘出術	14
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	14
咽頭良性腫瘍摘出術	1
咽頭悪性腫瘍摘出術	22
その他の口腔咽頭手術	11
喉頭微細手術	76

手術名	件数
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	2
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	2
頭頸部手術	239
頸部郭清術	49
頭頸部腫瘍摘出術	190
顎下腺良性腫瘍摘出術	8
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1
耳下腺良性腫瘍摘出術	43
耳下腺悪性腫瘍摘出術	10
甲状腺良性腫瘍摘出術	15
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	6
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	6
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	1
喉頭悪性腫瘍摘出術	10
リンパ節生検	40
頸部嚢胞摘出術	6
顎下腺摘出術	6
その他の頭頸部腫瘍手術	1
その他の頭頸部手術	37
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	0
気管切開術	12

## 鹿兒島市立病院

手術名	件数
耳科手術	51
鼓室形成術	17
鼓膜チューブ挿入術	8
人工内耳手術	6
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	1
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	3
乳突削開術	9
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	1
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	6
鼻科手術	100
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	68
鼻中隔矯正術	13
鼻甲介切除術	19
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
口腔咽喉頭手術	157
扁桃摘出術	120
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	37
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	5
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	4
咽頭良性腫瘍摘出術	15
咽頭悪性腫瘍摘出術	5
その他の口腔咽喉頭科手術	8
喉頭微細手術	15

手術名	件数
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	92
頸部郭清術	12
頭頸部腫瘍摘出術	80
顎下腺良性腫瘍摘出術	0
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	17
耳下腺悪性腫瘍摘出術	3
甲状腺良性腫瘍摘出術	13
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	5
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	4
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	4
リンパ節生検	16
頸部嚢胞摘出術	1
顎下腺摘出術	5
その他の頭頸部腫瘍摘出術	9
その他の頭頸部手術	3
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	1
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	7
気管切開術	48

## 鹿兒島厚生連病院

手術名	件数
耳科手術	2
鼓室形成術	0
鼓膜チューブ挿入術	2
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	0
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	0
乳突削開術	0
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
鼻科手術	185
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	54
鼻中隔矯正術	27
鼻甲介切除術	56
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
口腔咽喉頭手術	40
扁桃摘出術	40
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	0
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	0
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0
咽頭良性腫瘍摘出術	0
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
喉頭微細手術	3

手術名	件数
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
頭頸部手術	4
頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	4
顎下腺良性腫瘍摘出術	0
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	3
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	0
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	1
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	0
リンパ節生検	0
頸部嚢胞摘出術	0
顎下腺摘出術	0
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	0
気管切開術	0

## いまきいれ総合病院

手術名	件数
耳科手術	57
鼓室形成術	26
鼓膜チューブ挿入術	17
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	2
顔面神経減荷術	1
先天性耳瘻管摘出術	6
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	3
乳突削開術	2
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	0
鼻科手術	460
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	169
鼻中隔矯正術	104
鼻甲介切除術	187
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	157
扁桃摘出術	132
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	25
口蓋垂・軟口蓋形成術	1
舌・口腔良性腫瘍摘出術	5
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	5
咽頭良性腫瘍摘出術	12
咽頭悪性腫瘍摘出術	2
その他の口腔咽喉頭手術	0
喉頭微細手術	12

手術名	件数
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	1
喉頭形成術	1
喉頭截開術	0
頭頸部手術	73
頸部郭清術	8
頭頸部腫瘍摘出術	65
顎下腺良性腫瘍摘出術	7
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1
耳下腺良性腫瘍摘出術	14
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	17
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	4
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	5
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	7
頸部嚢胞摘出術	3
顎下腺摘出術	6
その他の頭頸部腫瘍摘出術	0
その他の頭頸部手術	0
食道異物摘出術	1
気管異物摘出術	0
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	18
気管切開術	14

## 鹿兒島大学病院

手術名	件数
耳科手術	73
鼓室形成術	15
鼓膜チューブ挿入術	27
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	2
先天性耳瘻管摘出術	9
外耳道形成術	4
鼓膜形成術	1
乳突削開術	6
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	45
鼻科手術	378
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	191
鼻中隔矯正術	59
鼻甲介切除術	0
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	1
その他の鼻科手術	127
口腔咽喉頭手術	249
扁桃摘出術	159
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	51
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	2
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	6
咽頭良性腫瘍摘出術	10
咽頭悪性腫瘍摘出術	33
喉頭微細手術	14
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	25
喉頭形成術	12
喉頭截開術	0

手術名	件数
頭頸部手術	145
頸部郭清術	44
頭頸部腫瘍摘出術	101
顎下腺良性腫瘍摘出術	3
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2
耳下腺良性腫瘍摘出術	21
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1
甲状腺良性腫瘍摘出術	5
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	6
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	8
リンパ節生検	11
頸部嚢胞摘出術	4
顎下腺摘出術	5
その他の頭頸部腫瘍手術	35
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	0
気管切開術	26

## 霧島市立医師会医療センター

手術名	件数
耳科手術	14
鼓室形成術	2
鼓膜チューブ挿入術	3
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	3
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	6
乳突削開術	0
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	0
鼻科手術	101
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	42
鼻中隔矯正術	24
鼻甲介切除術	35
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	79
扁桃摘出術	72
舌, 口腔, 咽頭腫瘍摘出術	7
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1
咽頭良性腫瘍摘出術	5
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
その他の口腔咽頭手術	11

手術名	件数
喉頭微細手術	6
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	52
頸部郭清術	2
頭頸部腫瘍摘出術	50
顎下腺良性腫瘍摘出術	3
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	3
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	15
パセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	8
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	1
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	9
頸部嚢胞摘出術	4
顎下腺摘出術	3
その他の頭頸部腫瘍手術	0
その他の頭頸部手術	0
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	3
気管切開術	5

(令和6年4月現在)

### < 文部科学省科学研究費 >

基盤研究 (C) 令和4年～令和6年

喉頭気管粘膜の傷害抑制および再生治療に関する研究

研究代表者 山下 勝

基盤研究 (C) 令和4年～令和6年

経眼投与による粘膜免疫応答の誘導

研究代表者 永野 広海

若手研究 令和4年～令和6年 (留学のため研究中断)

ヒト iPS 細胞を用いた気管喉頭軟骨再生

研究代表者 吉松 誠芳

基盤研究 (C) 令和6年～令和8年

Heterologous prime boost strategy を利用した粘膜免疫を誘導するワクチンの開発

研究代表者 大堀純一郎

### < その他 >

令和5年度鹿児島大学異分野融合研究プロジェクト創出研究助成事業

慢性副鼻腔炎手術後の創傷治癒促進用の微粒子キトサンヒドロゲルの開発

研究代表者 武井 孝行 (理工学研究科 (工) 教授)

研究分担者 山下 勝

一般社団法人曾田豊二記念財団

松元 隼人

新規希少糖1,5-anhydro-D-fructose およびその誘導体の抗腫瘍効果、抗炎症効果を用いた治療法・予防法の開発

一般社団法人曾田豊二記念財団

久徳 貴之

声帯創傷治癒に関わる因子の解明、及び予防・治療法開発に関する研究

## 1. 原 著

- (1) 喜山敏志, 川畠雅樹, 松崎尚寛, 松本隼人, 山下 勝  
側頭下窩膿瘍から硬膜下膿瘍をきたした1例  
耳鼻臨床 116(7) : 677-683, 2023
- (2) 永野広海, 松崎尚寛, 松元隼人  
肺 MAC 症の経過観察中に生じた鼻腔・顔面皮膚・肺結核例  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 96(1) : 84-88, 2024
- (3) 峠 早紀子, 花牟禮 豊, 積山幸祐, 山下 勝  
頸部 CT 画像242例による茎状突起の長さに関する解剖学的計測および茎状突起過長症症例の検討  
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 126(9) : 1061-1067, 2023
- (4) 原口めぐみ, 井内寛之, 山下 勝  
小児に発生した原発性前頭洞・篩骨洞嚢胞例  
耳鼻臨床 117(3) : 247-253, 2024
- (5) Nakajo M, Kawaji K, Nagano H, Jinguji M, Mukai A, Kawabata H, Tani A, Hirahara D, Yamashita M, Yoshiura T  
The Usefulness of Machine Learning-Based Evaluation of Clinical and Pretreatment [18F]-FDG-PET/CT Radiomic Features for Predicting Prognosis in Hypopharyngeal Cancer. Mol Imaging Biol. 2023 Apr; 25(2): 303-313.
- (6) Nagano H, Matsumoto H, Miyamoto Y, Takumi K, Nakajo M, Yamashita M  
Adult T-cell Leukemia/lymphoma (ATL) in the nasal and paranasal cavity: Four cases report.  
Indian J Otolaryngol Head Neck Surg 76(1): 1264-71, 2024. doi : 10. 1007/s12070-023-04258-3. Epub 2023 Oct 13.

- (7) Tanji M, Oishi M, Sano N, Terada Y, Kikuchi M, Nakagawa T, Sakamoto T, Matsunaga M, Kuwata F, Kitada Y, Yamashita M, Mineharu Y, Miyamoto S, Arakawa Y  
Impact of collagen matrix on reconstructive material selection and postoperative complications in endoscopic endonasal skull base surgery.  
J Neurosurg Feb23: 1-8, 2024. doi: 10. 3171/2023. 12. JNS231406. Online ahead of print.

## 2. 総 説

### (1) 吉松誠芳

特集・大人と子どもの首の腫れ

MTX 関連リンパ増殖性疾患, IgG4関連疾患, サルコイドーシス, アミロイドーシス  
MB ENT, 290:62-75, 2023

### (2) 吉松誠芳, 山下 勝

特集 内視鏡所見カラーアトラス 見極めポイントはここだ!

《咽喉頭領域》 上・中咽頭

伝染性単核球症 / 扁桃結核 / HIV 感染症・AIDS / ベーチェット病

水疱性類天疱瘡 / Tornwaldt 嚢胞 / 中咽頭乳頭腫 / 異所性甲状腺

上・中咽頭がん / メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患 (MTX-LPD)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 95(3) : 226-231, 2023

### (3) 山下 勝

【高齢者の疑問にどう答えるか】 口腔・咽頭・食道領域 痰のきれが悪いのですが、  
どうしたらいいのでしょうか? (解説)

JOHNS 39(9) : 1091-1094, 2023

### (4) 山下 勝

【耳鼻咽喉科領域と慢性炎症】 声門下・気管狭窄 (解説)

別冊 Bio Clinica: 慢性炎症と疾患 12(1) : 66-69, 2023

### (5) 山下 勝

【豊富な処方例でポイント解説! 耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル】 口腔・  
咽喉頭の感染症 / 炎症 急性喉頭炎 / 急性喉頭蓋炎 / 急性声門下喉頭炎 (解説)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 95(5)：117-120, 2023

(6) 山下 勝

高齢者の発声機能の特徴と改善の可能性について【声帯萎縮や声帯溝症を主とし、環境因子に修飾される。適切な診断が鍵となる】(Q&A)

日本医事新報「プロからプロへ」5164号：50-51, 2023

(7) 山下 勝

声帯ポリープ

今日の診療指針－私はこう治療している－ 2024年版：1615-1616, 2024

(8) 山下 勝

治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 急性声門下喉頭炎（クループ）（解説）

日本医事新報 5159号：46-47, 2023

(9) 大堀純一郎

【豊富な処方例でポイント解説！ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル】口腔・咽喉頭の感染症／炎症 急性咽頭炎（解説）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 95(5)：110-112, 2023

(10) 永野広海

【全身疾患と口腔咽頭病変】感染症 EB ウイルス感染症（解説）

JOHNS 39(7)：684-688, 2023

### 3. その他

(1) 山下 勝

「副鼻腔炎」の原因とその治療

読売新聞 2024年1月12日

(2) 山下 勝

あんしん救急箱 新生児聴覚検査－聞こえの異変，早期発見－

南日本新聞 2024年2月23日

## 4. 国内学会発表

### (1) 特別講演

奈良県耳鼻咽喉科講習会 令和5年4月15日（橿原市）

「アレルギー疾患と鼻・喉頭疾患 -私の治療方針-」

山下 勝

京都大学医学部臨床講義 令和5年4月19日（WEB開催）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科について」

山下 勝

令和5年度 鹿児島県言語聴覚士会学術講習会

令和5年5月14日（ハイブリッド開催，鹿児島市）

「言語聴覚士の方に知って欲しい耳鼻咽喉科・頭頸部外科のこと」

山下 勝

今村総合病院研修医臨床講義 令和5年7月8日（鹿児島市）

「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室について」

山下 勝

いまきいれ総合病院研修医臨床講義 令和5年7月14日（鹿児島市）

「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室について」

山下 勝

鹿児島県耳鼻咽喉科医会学術講演会 令和5年7月20日（鹿児島市）

「当科におけるデュピルマブ投与症例の検討」

宮下圭一

第146回日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会学術講演会

令和5年7月22日（沖縄県）

「鼻・喉頭・頭頸部疾患治療における私の方針」

山下 勝

頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）講演会@南九州エリア

令和5年7月27日（WEB開催）

「頭頸部アルミノックス治療の経験からの考察」

西元謙吾

第16回福岡地区耳鼻咽喉科専門医会（五孔会）講習会

令和5年7月26日（福岡市）

「心に留めてほしい耳鼻咽喉科疾患について」

山下 勝

京都大学医学部臨床講義 令和5年9月20日（WEB開催）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科について」

山下 勝

第4回大隅耳鼻咽喉科医科講演会 令和5年12月7日（鹿屋市）

「耳鼻科領域の感染症と鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室の取り組み」

山下 勝

第76回札幌ENTカンファレンス 令和5年12月22日（札幌市）

「頭頸部腫瘍の治療 -How I do it-」

山下 勝

京都大学医学部臨床講義 令和6年1月24日（WEB開催）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科について」

山下 勝

第54回滋賀県耳鼻咽喉科オープンセミナー 令和6年1月25日（草津市）

「気を付けたい喉頭・頭頸部疾患とその治療 -How I do it-」

山下 勝

厚生労働省医政局補助事業『補聴器販売者の技能向上研修等事業』

補聴器販売者技能向上研修 令和6年2月17日（鹿児島市）

「高齢者難聴と補聴器ならびに学会としての取り組みについて」

宮之原郁代

厚生労働省医政局補助事業『補聴器販売者の技能向上研修等事業』

消費者セミナー 令和6年2月18日（鹿児島市）

「高齢者難聴と補聴器について」

宮之原郁代

## セミナー

第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会

令和5年5月17日～20日（福岡市）

手術手技セミナー 「頸部郭清術 -How I do It-」

山下 勝

## パネルディスカッション

第36回日本喉頭科学会・学術講演会 令和6年3月7日～8日（京都市）

「気道緊急のマネジメント総論－疾患，機器，麻酔－」

山下 勝

## 一般

第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会

令和5年4月13日～15日（和歌山市）

「13価肺炎球菌結合型ワクチン経鼻投与による免疫誘導」

宮本佑美，大堀純一郎，川畠雅樹，永野広海，山下 勝

第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会

令和5年5月17日～20日（福岡市）

「当科における難聴の遺伝子解析症例の検討」

宮之原郁代，大堀純一郎，田淵みな子，山下 勝，宇佐美真一

第48回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術講演会

令和5年6月3日（鹿児島市）

「奄美大島瀬戸内町における耳鼻咽喉科診療」

西 龍郎，田畑貴久，梅野悠太，木庭忠士（福岡徳洲会病院 耳鼻咽喉科）

「臨床経過より浸潤型が疑われた蝶形骨洞真菌症の1例」

下菌知己，永田 圭，積山幸祐，花牟禮 豊，福田勝則，昇 卓夫

「当院における頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）の経験」

西元謙吾, 高木 実, 原口めぐみ, 田中智規, 松崎 勉

「抗腫瘍効果, 抗炎症効果, 抗菌効果を見込まれる希少糖についての検討」

松元隼人, 吉松誠芳, 川島雅樹, 山下 勝

「肺炎球菌結合型ワクチン経鼻投与による免疫誘導」

宮本佑美, 大堀純一郎, 永野広海, 山下 勝

「中耳真珠腫の病態解明と粘膜再生による新たな治療戦略」

東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学教室 教授 小島 博己 先生

第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会 令和5年6月15日～16日（大阪市）

「ハウ素中性子補足療法（BNCT）を施行した頭頸部癌症例の検討」

大堀純一郎, 田淵みな子, 吉松誠芳, 川島雅樹, 栗飯原輝人, 山下 勝

「ペンプロリズマブを使用した再発・転移頭頸部癌症例の検討」

川島雅樹, 永野広海, 大堀純一郎, 山下 勝

第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 令和5年6月24日～25日（東京都）

「ペンプロリズマブが奏功した外耳道癌再発例」

原口めぐみ, 井内寛之, 山下 勝

「涙嚢に生じた結節性筋膜炎の1例」

下菌知己, 喜山敏志, 大堀純一郎, 山下 勝

第38回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会 令和5年7月15日～16日（久留米市）

「当科における気管切開術症例の検討」

松崎尚寛, 馬越瑞夫, 津曲省吾, 林 多聞

「化学放射線療法後に頸動脈破裂を来した中咽頭癌の1例」

竹元尊徳, 吉松誠芳, 大堀純一郎, 山下 勝

第40回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会 令和5年8月26日（大津市）

「若齢マウスの肺炎球菌ワクチン経鼻投与による Polysaccharide 特異的 IgA 誘導」

宮本佑美, 大堀純一郎, 松本隼人, 久徳貴之, 吉松誠芳, 川島雅樹, 永野広海,

山下 勝

第36回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

令和5年9月14日～15日（高知市）

「即時膿扁桃摘後に扁桃周囲膿瘍をきたした2症例」

大堀純一郎, 川島雅樹, 山下 勝

第62回日本鼻科学会総会・学術講演会 令和5年9月28日～30日（津市）

「内視鏡下鼻副鼻腔手術後に嗅覚の改善を認めたターナー症候群例」

牧瀬高穂

「肺炎球菌結合型ワクチン経鼻投与による粘膜免疫の誘導」

宮本佑美, 大堀純一郎, 安藤由実, 川島雅樹, 宮下圭一, 永野広海, 山下 勝

第68回 日本音声言語医学会総会・学術講演会

令和5年10月5日～6日（倉敷市）

「過緊張性発声障害に対して Vocal Function Exercise と Water Resistance Therapy を併用した1症例」

小倉道弘, 山下 勝

第82回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会 令和5年10月25日～27日（新潟市）

「CANVAS 2 症例の前庭機能検査」

宮本佑美, 下菌知己, 宮之原郁代, 山下 勝

第33回日本耳科学会総会・学術講演会 令和5年11月1日～4日（高崎市）

「脳膿瘍をきたした真珠種性中耳炎の2症例」

大堀純一郎, 喜山敏志, 田淵みな子, 吉松誠芳, 山下 勝

「外耳道腺様嚢胞癌の1例」

喜山敏志, 大堀純一郎, 田淵みな子, 吉松誠芳, 山下 勝

第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

令和5年11月9日～10日（別府市）

「A case of bronchial foreign body treated with basket forceps under rigid bronchoscopy」

Takayuki Kyutoku, M.D., Masayoshi Yoshimatsu, M.D.,Ph.D., Junichiro Ohori, M.D.,Ph.D., Masaru Yamashita, M.D.,Ph.D.

第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

令和5年11月14日～15日（福岡市）

「気管切開術を要した高齢の Arnold-Chiari 奇形1型両側声帯麻痺症例」

宮本佑美, 吉松誠芳, 宮下圭一, 大堀純一郎, 山下 勝

第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

令和6年2月1日～2日（松山市）

「中咽頭前壁扁平上皮癌症例の臨床的検討」

川島雅樹, 喜山敏志, 吉松誠芳, 宮下圭一, 永野広海, 大堀純一郎, 山下 勝

「経外耳道の内視鏡下耳科手術で摘出した耳管鉄粉異物の1例」

吉松誠芳, 大堀純一郎, 喜山敏志, 川島雅樹, 宮下圭一, 永野広海, 山下 勝

「上顎洞に発生した明細胞型粘表皮癌の1例」

喜山敏志, 吉松誠芳, 大堀純一郎, 川島雅樹, 宮下圭一, 永野広海, 山下 勝

「頸部に生じた undifferentiated pleomorphic sarcoma の1例」

下藺知己, 永田 圭, 積山幸祐, 花牟禮 豊

「上咽頭に発生した脊索腫の1例」

田中智規, 原口めぐみ, 高木 実, 西元謙吾, 松崎 勉

第6回日本アレルギー学会 九州・沖縄支部地方会 令和6年2月17日（福岡市）

「非2型炎症疾患である嚢胞性線維症症例の臨床経過」

宮本佑美, 牧瀬高穂, 大堀純一郎, 山下 勝

第36回日本喉頭科学会・学術講演会 令和6年3月7日～8日（京都市）

「高齢者における進行喉頭癌症例の臨床的検討」

川島雅樹, 徳重豪士, 吉松誠芳, 山下 勝

「喉頭癌 T3 症例の検討」

吉松誠芳, 徳重豪士, 川島雅樹, 山下 勝

「喉頭アミロイドーシスの3例」

徳重豪士, 川島雅樹, 久徳貴之, 吉松誠芳, 山下 勝

## 1. 新入局員紹介

### 大原 章裕

2014年に聖マリアンナ医科大学を卒業し、現在鹿児島大学病院に勤務している大原と申します。

私は神奈川県出身で、大学卒業後は頭頸部癌の化学療法に携わりたいという思いから同学の耳鼻咽喉科に入局致しました。入局後は、前任の教授である肥塚 泉先生の下で平衡機能の研究に取り組み、学位を取得することができました。学位取得後は、元々携わりたいと考えていた化学療法を学ぶために、国立がん研究センター中央病院で研修を行いました。

その後、妻の実家が鹿児島にあることから、妻の帰郷に伴い私も一緒に鹿児島に移ることになりました。山下 勝先生のご厚意により、転局させていただくことができ、現在に至ります。

頭頸部がんの治療も含め日々の診療や研究などで、力になれるよう努力していく所存です。環境の変化に伴い不慣れな点多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 藤崎 亮

今年の4月より鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局いたしました藤崎亮と申します。

私は、鹿児島市出身で鹿児島大学に入学しゴルフ部に所属しておりました。最近では鹿児島大学OB・OGゴルフ大会に参加させていただきました。これからもゴルフは続けていきたいと思っております。大学卒業後は鹿児島市立病院で初期研修を行いました。研修で回る中で多種多様な手技・手術があり、それでいて内科的治療も多く外科・内科どっちもしてみたい自分に合っていると思い、当科に進むことを決めました。

耳鼻科医として勤務し始めて早1カ月が過ぎましたが、まだまだわからないことが多く、日々先生がたに助けられております。若輩者ではありますがこれから立派な耳鼻科医になれるように頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 矢野 雅己

この度入局させて頂きました矢野雅己と申します。平成8年6月に済生会川内病院で生まれ都城市で育ちました。小学校からテニスに没頭していたので1年余計に勉強致しまして関東の医大を卒業しました。初期研修は今村総合病院で修了しました。

学生の頃の耳鼻咽喉科に対しては、手術が長い、解剖がよくわからない、加えて出身大学の指導医が厳しかったことなど、マイナスイメージが強く進路の対象でなかったのですが初期研修中にこちらの医局でお世話になるうちに先輩の先生方の優しいご指導に、こちらで勉強したいという気持ちになりました。

一人前になるまでは皆様方に多大なるご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

なお趣味・特技はテニスです。食べることも好きです。どうぞ何かありましたらよろしく願います。

## 小倉 道広 (言語聴覚士)

はじめまして。私は、言語聴覚士(以下、ST)の小倉道広と申します。臨床経験は18年目になります。これまで勤務した施設は鹿児島大学病院で3施設目になります。最初に勤務した南九州市にある菊野病院では、主に小児のリハビリテーション(構音障害、言語発達障害、口蓋裂、自閉症スペクトラム、重症心身障害児など)を中心に携わらせていただきました。2施設目の霧島リハビリテーションセンターでは、主に脳卒中の嚥下障害をテーマとして臨床および研究に取り組む機会を頂いておりました。3施設目の鹿児島大学病院に赴任してからは、ICU/救急、一般病棟、口蓋裂専門外来を中心に業務を行っておりました。

2023年からは、音声外来、聴覚検査、特殊検査を中心として耳鼻咽喉科外来に勤務させて頂いております。耳鼻咽喉科領域は、STの私にとっては本当に興味が尽きません。疾患を理解するための解剖生理、それを評価するための音声や聴覚(平衡/前庭)に関する客観的な評価の重要性。いくら勉強しても追いつかない日々ですが、それがまた充実しています。

鹿児島県のSTの数は増加傾向ではありますが、耳鼻咽喉科領域を専門としているSTは一握りです。音声障害や聴覚(平衡/前庭)障害のある患者(児)の医療的な管理を行える施設は充実していても、リハビリテーションを提供することができる施設は限られています。私たちの年代でこの問題を解決しなければ、この後、5年、10年は変わらずそのままかもしれません。日々の臨床の中で先達からご指導いただいたエッセンスを、可能な限り県下のSTへ還元し、患者さん方が住み慣れ

た地域で音声・聴覚（平衡／前庭）リハビリテーションを受けられる環境を整えることが、今の私の役割だと認識しております。鹿児島県における言語聴覚療法の提供体制を改善すべく、日々精進して参る所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 2. 医局人事（令和6年5月現在）

教 授	山下 勝
准 教 授	大堀純一郎
講 師	永野広海
助 教	宮下圭一，川島雅樹，田淵みな子，大原章裕
特任助教	宮本佑美
医 員	松元隼人，松崎尚寛，安藤由実，田中智規，藤崎 亮，矢野雅己

医 局 長	川島雅樹
病棟医長	大堀純一郎
外来医長	永野広海

## 関連病院（令和6年5月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，徳重豪士，峠 早紀子，下蘭知己
鹿児島市立病院	馬越瑞夫，喜山敏志
いまきいれ総合病院	積山幸祐，竹元尊徳
鹿児島厚生連病院	牧瀬高穂
霧島市立医師会医療センター	原口めぐみ
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
あまたつクリニック	久徳貴之

### 3. 学会報告

#### 第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会

宮本 佑美

2023年4月13-15日、和歌山城ホールにて開催されました。山下教授が「好酸球性副鼻腔炎の病態」座長を、福岩達哉先生が「これからの、エアロゾル吸入療法！」シンポジストを務められ、宮本が一般演題にて参加しました。学会テーマの「内外合一・活物窮理」、保富宗城教授「感染免疫から感覚免疫への研究展開」、改正恒康教授「樹状細胞サブセットによる免疫制御」御講演等拝聴したくさんの学びを得ることができました。Live留学・奨励賞部門では世代の近い先生方の御活動に刺激を受けました。雨上がりに和歌山城内の新緑から発せられる空気が新鮮で、久々の現地参加は前年コロナ診療に力を尽くした対価だと思えました。



#### 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会

宮之原 郁代

2023年5月17日(水)～20日(土)に開催された第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会(福岡市)に参加いたしました。同年5月8日からコロナ感染症が「5類感染症」になり、感染対策がやや緩やかにはなりつつある時期で、私にとってはほぼ4年ぶりの現地参加の学会となり、とても感慨深いものがありました。宿題報告はもちろんですが、パネルディスカッション「難聴児へのシームレスな多職種連携支援」ではさまざまな立場からの討論がなされ、医療以外の支援を理解する良い機会になりました。また共通講習「ラッサウイルス感染の国際共同研究」では、BSL4 (biosafety level 4) ラボでの実験や発展途上国との共同研究での様子など、とても興味深いものでした。COVID-19で私たちが経験したように、特定の地域の風土病と思われていた感染症が、あっという間に世界に広がり甚大な影響をおこす可能性が出てきて、以前よりも国際共同研究をする意義が大きくなってきた、と述べられていたことがとても印象的でした。

私は、学会では、さまざまな分野のエキスパートのお話を伺うことができる特別講演

をいつも楽しみにしているのですが、今回、講師として株式会社ジャパネットたかたを創業された高田明氏が登場されました。「人生はボトルネックを探す旅～今を一生懸命生きる～」と題して、ご自身のダイナミックな人生を面白楽しく語られ、大変元気づけられました。そのなかで、「伝える」ということについて、「伝えた」ということと「伝わった」ということは違う、「伝わるコミュニケーション」をするにはどういうことが大切か、についてクリアに説明されとても感銘を受けました（ご興味のある方は高田明著「伝えることから始めよう」をご参照ください）。私自身も臨床の現場で常日頃、この「伝えた」と「伝わった」が違うことは身にしみて感じているところでしたので、新たな視点で自分自身のコミュニケーションスキルを高めていければ、と思っているところです。

最後に、久々の現地参加は①遠方の知人に会えた②自分の発表の時も、講演に参加したときも、演者だけでなくオーディエンスの反応もわかり臨場感があり、刺激を受けた③機器展示コーナーでは、直接手に取って吟味でき、試着・試用ができた、などの点でとても有意義でした。ただ、オンデマンド配信の利便性が素晴らしいことは、この4年間で実感してきたので、是非今後も、現地参加とweb配信をバランス良く組み合わせ情報アップデートしていきたいと思っていますところです。

## 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会

川 島 雅 樹

令和5年6月15、16日に大阪にて第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会が開催されました。当教室からは山下教授、大堀先生、私の3人が参加しました。大堀先生はホウ素中性子捕捉療法（BNCT）を行った頭頸部癌症例について発表をされ、私はペムブロリズムブを使用した再発・転移頭頸部癌症例についての検討を行い発表しました。頭頸部癌学会には耳鼻咽喉科・頭頸部外科医だけでなく、形成外科医、放射線科医、腫瘍内科医、口腔外科医など様々な専門分野の先生方により議論がなされるため、頭頸部癌の診断・治療については新鮮な視点で学べる機会となりました。4年ぶりに現地参加し、貴重なお話をライブで拝聴することができました。Webの良さはもちろんありますが、同じ空間で生の声をより緊張感をもって拝聴することの良さを改めて感じました。免疫チェックポイント阻害薬や光免疫療法、BNCTなど、頭頸部癌の治療は目覚ましく進歩しており、今後も本学会に参加して勉強に励んでいきたいと思っております。

## 第85回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会

下 菌 知 己

本学会は2023年6月24～25日に東京医科大学主幹のもと、新宿の京王プラザホテルにて開催されました。当教室からは山下勝教授，原口めぐみ先生，初期研修医の先生2名，私の合計5名が参加しました。

山下教授は、「未来の ENT Dr を探せ！」の初期研修医・学生セッションの座長を担当され，原口先生は「ペンプロリズムマブが奏功した外耳道癌再発例」，私は「涙嚢に生じた結節性筋膜炎の1例」をポスター口演しました。

コロナ禍から約3年が経過し，久しぶりの現地開催のみでの学会でした。学会テーマ「耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を楽しむ」にふさわしく，最先端の「臨床」に即したイベントが多数用意されており，学会会場も大いに盛り上がっておりました。初めての全国学会発表の私にとって，とても貴重な経験となりました。

夜は勧誘と称して，耳鼻科研修ローテート中の初期研修医の先生方と飲み会に行ってきました。学会を通じて，今後も耳鼻科の魅力・やりがい存分に伝えていけたらと思います。

## 第38回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会

竹 元 尊 徳

2023年7月15日・16日の2日間にわたり，第38回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会が開催されました。開催地は久留米で，天候にも恵まれ，野球大会も予定通り行うことができました。そして野球大会はなんと，3位という好成績を収めることができました。

学術講演会では私と松崎先生が演題を発表し，教授は座長を務めました。自分自身も初めての発表であり大変緊張しましたが，教室の先生の手厚いサポートもありなんとか終えることができました。そして，いつか先輩の先生のように素敵な演題発表ができるようにならねばと思いました。

他大学との交流もあり，大変有意義な2日間でありました。また，医学部生や研修医も参加しまして，大変盛り上がる学会でした。

## 第40回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会

宮本 佑美



2023年8月26日、快晴の琵琶湖ホテルにて開催されました。山下教授が「顔面神経」の座長、宮本が基礎研究発表を行いました。伊藤靖教授「感染症研究における霊長類モデルの役割」御講演聴講し、ワクチン研究の歴史と最前線を学びました。日本免疫学会夏合宿に参加した夏休みの最終日、路面電車沿いを歩いて辿り着いた初めての琵琶湖は青く、大きかったです。清水猛史教授宿題報告「上気道炎症の病態と制御—臨床における疑問に挑む—」附章にて若い研究者へ宛てられた「研究の心得」を拝読し、今後の研究の流れに思いを馳せました。

## 第36回日本口腔・咽頭科学会の参加報告

大堀 純一郎

2023年9月14日(木)から15日(金)にかけて、高知県のザ クラウンパレス新阪急高知で第36回日本口腔・咽頭科学会が開催されました。今回のテーマは「口腔・咽頭科学の新展開」で、最新の研究成果や臨床事例が発表されました。

当科からは、山下教授と大堀が参加しました。大堀は、一般演題「即時膿瘍扁桃摘後の扁桃周囲膿瘍」について発表しました。また、本学会から発行された「扁桃病巣疾患診療の手引き」の執筆にも参加させていただき、無事発刊されました。皆様もぜひお手に取っていただければと思います。

本学会では、舌下神経電気刺激装置に関する発表もありました。CPAP 不適應の睡眠時無呼吸症候群の治療に用いられる装置であり、本学会では、舌下神経電気刺激装置の適應や禁忌、植込み手術の方法や注意点、効果や副作用などについて詳しく説明されました。

本学会は、口腔・咽頭科学の最新の知見を得ることができる貴重な機会でした。また、高知県は自然豊かで歴史ある土地であり、名物のカツオのたたきや土佐酒なども楽しむことができました。本学会に参加できたことを感謝します。



## 第62回日本鼻科学会総会・学術講演会

宮本 佑美

2023年9月28-30日、三重県総合文化センターにて開催されました。会場周辺は彼岸花など秋に咲く花が満開でした。山下教授は「手術の工夫」の座長を務められ、宮本は経鼻ワクチン研究について発表しました。特別企画1「鼻科学会発 最新の診療指針を理解する」にて日本鼻科学会発の診療の手引きや指針の理解が深まりました。基礎ハンズオンセミナーに居らした先輩世代の先生方がとにかく明るく、鼻科学研究の手法を楽しく体得させて頂きました。基礎研究演題では同世代・領域の近い先生方と発表が隣合い、直後に会話した研究の工夫や留学話に刺激を受けました。



## 第68回日本音声言語医学会総会・学術講演会

言語聴覚士 小倉道広

令和5年10月5日～6日に倉敷市で第68回 日本音声言語医学会 総会・学術講演会が開催されました。当教室からは山下教授，私の2名が参加しました。山下教授は一般演題「音声障害 治療①」の座長を務められ，演題発表から更に聴講者の思考を深めるようなアドバイスをされていたことがとても印象的でした。私は「過緊張性発声障害に対して Vocal Function Exercise と Water Resistance Therapy を併用した1症例」というタイトルで口演させていただきました。質疑応答だけでなく，発表後も言語聴覚士の諸先輩方から臨床につながるアドバイスをいただく機会があり，大変勉強になりました。来年も本学会で発表ができるように，丁寧に日々の臨床に向き合って参りたいと思います。



## 第82回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会

竹元尊徳

2023年10月25日から27日にかけて第82回 めまい平衡医学会総会・学術講演会が新潟県朱鷺メッセで開催されました。大学からは宮本佑美先生とかばん持ちで竹元が参加させていただきました。また厚生連病院の牧瀬高穂先生も参加されました。

今回この学科をかばん持ちで選ばせていただきました理由ですが、入局してから最初は前庭機能検査が苦手であり、特にvHITに関しては、文字を見ただけでめまいが起りそうになるほどに、拒否的であったからです。幸いにもvHIT講習会を受講することができましたため、すこしでも苦手意識を減らしたいと思い、この学会に参加しました。

まず開催場所の朱鷺メッセですが、非常に景色のきれいな場所にあり、会場は広く、なんとストリートピアノまでおいてありました。ちなみにこのピアノは弾くことができましたため、実際に弾いてみましたところ、同じくストリートピアノを弾かれる県外の先生と交流することができました（しかも曲が被るという珍事件もありました）。大変現地参加というものはよいものであると感じました。

学会の内容ですが、とても充実しておりました。演題および講演会はPPPDやメニエール病、COVID-19関連のめまいなど様々であり、ランチョンセミナーでは補聴器と認知症の関連など一部聴覚に関する話題も含まれておりました。非常に幅広い内容を学ぶことができたと感じます。また、私のつたない質問に対しても真摯に答えていただける場面もあり、非常に感銘を受けました。

そして、鹿児島大学からは宮本先生が「CANVAS 2 症例の前庭機能検査」を発表されました。聞いたことない病気ではありましたが、見やすく丁寧なスライドのおかげもあり、入局1年目でも楽しめる内容でありました。そしていつかこのめまい平衡医学会



で私も発表したいと強く感じました。最後に、vHIT 講習会ですが、鹿児島大学からは3人全員参加させていただきました。非常にわかりやすくかつ、大変興味深い内容であり、vHIT の苦手意識は大分改善したように感じました。

以上学会報告になります。大変貴重な機会を設けていただきありがとうございました。

## 第33回日本耳科学会総会・学術講演会

喜山敏志

2023年11月1日～4日の期間、第33回日本耳科学会総会・学術講演会がGメッセ群馬にて開催され、当教室からは大堀純一郎先生、私が参加いたしました。大堀先生は「脳膿瘍をきたした真珠腫性中耳炎の2症例」、私は「外耳道腺様嚢胞癌の1例」という演題でそれぞれ現地にて発表いたしました。

私は昨年に引き続きの同学会参加でした。今回は他県の先生方との交流も出来、非常に有意義な学会参加となりました。余談ですが、群馬はフルーツと蕎麦が美味しかったです。

## 第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

久徳貴之

2023年11月9日・10日に別府国際コンベンションセンター（B-CON PLAZA）にて開催された本学会ですが、9<sup>th</sup> Asia Pacific Pediatric Otolaryngology Group Conference との同時開催でもあり国際色の強い印象でした。発表形式として、口演（英語・日本語）、ポスター（英語）が用意されており、私は“A case of bronchial foreign body treated with basket forceps under rigid bronchoscopy”という演題で発表を行いました。英語セッションの口演を理解するためにはまだまだ努力が必要と痛感しましたが、内容は小児の特徴や発達に関連したものがほとんどで興味深いものでした。日本語のセッションも同様で、難聴児の通常学級における環境調整についての講演や、虐待が疑われる症例についての発表など、「小児」の色彩を強く感じました。

開催地である大分県は大学時代に居住していた場所でもあり、旧友や先輩方と顔を合わせる機会もあり、大分大学耳鼻科の平野隆先生は英語でのご発表もされており感銘を受けました。本学会への参加という素晴らしい機会を与えていただき、ありがとうございました。

## 第74回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

宮本 佑美

2023年11月14・15日、福岡国際会議場にて開催されました。山下教授が「喉頭」の座長を務められ、吉松先生は共同演者ならびに専門医更新の機会にて、宮本は症例報告で参加しました。「気管食道科学会の基礎研究」「学会臨床研究発表会」「基礎」セッションの質疑応答が熱かったと思います。会場では当科で研修された藤原先生と再会し、一緒に携わった気道狭窄に関する診療の記憶に浸ったり、御互いの成長速度を確認したりしました。前年度はCOVID-19第6～8波ならびに単独勤務地にて自ら学会参加を控えていましたが、今年度は本学会を含め多くの学会に参加し演題発表できましたことを、この場をかりて感謝申し上げます。

## 第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

田中 智規

2024年2月1, 2日に第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会が愛媛県松山市にて開催されました。

当教室からは山下教授、川島先生、吉松先生、喜山先生、峠先生、下藺先生、私の7名が参加しました。

川島先生は「中咽頭前壁扁平上皮癌症例の臨床的検討」、吉松先生は「経外耳道的内視鏡下耳科手術で摘出した耳管鉄粉異物の1例」、喜山先生は「上顎洞に発生した明細胞型粘表皮癌の1例」、下藺先生は「頸部に生じたundifferentiated pleomorphic sarcomaの1例」、私は「上咽頭に発生した脊索腫の1例」という演題で発表しました。

現地参加し頭頸部手術の進化と深化を実感することができました。愛媛の郷土料理を楽しみ、温泉情緒あふれる道後温泉を満喫することができました。とても充実した学会でした。

## 第6回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方会

宮本 佑美

2024年2月17日、九州大学医学部百年講堂にて開催されました。山下教授が好酸球性鼻副鼻腔炎に関する教育講演座長を務められ、宮本が症例報告部門にて育成賞を頂きました。第62回日本鼻科学会で得た新しい鼻副鼻腔炎診療の手引きや線毛機能不全症候群（PCD）診療の手引きに関わる学びを生かしたく、PCDと鑑別を要した嚢胞性線維症（CF）症例の演題に取り組みました。鼻副鼻腔形態・炎症所見主体の発表でしたが、塩化物イオンチャネルである cystic fibrosis transmembrane conductance regulator（CFTR）や汗クロライド試験に触れた所、汗を専門とされる皮膚科学分野の先生より質疑応答を頂く機会を得ました。それを契機に帰宅後、関連知識の収集や、女性医師比率が比較的高いと報告（厚労省）されている皮膚科・眼科・小児科学領域のダイバーシティ環境現況についても垣間見ることができました。領域横断的な学会は、その場で想定していなかった情報や臨床・研究のヒントに辿り着ける所が好きです。書店にて思いもよらぬ特別な本と出会う現象や、レコード店で新旧・未知の音源に遭遇できる体験と似ていると思います。

## 第36回日本喉頭科学会・学術講演会

徳重 豪士

2024年3月7日・8日に第36回日本喉頭科学会・学術講演会が開催されました。山下教授はパネルディスカッション「気道緊急のマネジメント」にて「総論－疾患、機器、麻酔－」を、川島先生は「高齢者における進行喉頭癌症例の臨床学的検討」のポスター、吉松先生は「喉頭癌 T3 症例の検討」の口演、私は「喉頭アミロイドーシスの3例」をポスター発表しました。

ポスター発表では想定より多くの質問・指摘があり、発表の不十分な点や改善点に気づくことができ勉強になりました。またそのほかの講演では最先端の治療や、他施設で経験されたまれな症例について知る良い機会となりました。

懇親会では修学旅行以来の舞妓さんの踊りも見ることができ、日本酒は飲み放題でした。充実した学会となりました。

## 4. 関連病院便り

### 鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

今年度はコロナ禍明けの最初の年に当たり、新型コロナウイルス蔓延前の状態にいか  
に近づけるかが大きな目標でした。翻って見ると、症例数的には2019年度に症例数とし  
てみるとかなり近づいた感があります。それでも、病棟で新型コロナウイルスの患者内  
の一時的な蔓延があると、一気に診療が停滞し患者様に多くの迷惑がかかったこともあ  
りましたのでまだ本調子とまではいえませんでした。それでも、曲りなりにもコロナ禍  
からの脱却の一步を踏み出せたのは来年に大きくつながっていくと思います。このよう  
な厳しい環境でタイトな日程での手術を滞りなく完遂したり、可能な限り急患を受けたり  
することができたのは、ひとえに当院で病棟業務を担っていただいた先生方と病棟・  
外来・手術室などスタッフの皆様のおかげであり感謝申し上げます。

国立病院機構ではなかなか新規の医療機器を入れてくれないことは相変わらずの状況  
ですが、修理対応期間がそろそろ切れることが予想された副鼻腔手術ナビゲーションシ  
ステムが来年度に更新する予算が通り一安心しています。それでもまだまだ十分とまで  
はいえませんが、更新したい機器も目白押しですので、来年度も耳鼻咽喉科を大きくア  
ピールして医療機器導入にも積極的にアプローチしていきたいと思っています。

スタッフとして今年度、最初の6か月は高木実先生・原口めぐみ先生・田中智規先生  
に来ていただき一時的にスタッフに余裕ができましたが、症例数からするとこれくらい  
が適正なマンパワーではないかと感じました。10月から松崎尚寛先生・田中智規先生の  
体制となり一人減となったところでのマンパワーの落差はやはり感じてしまいました。  
当院に来ていただいた先生方には主に病棟業務を担っていただき、多くの患者様の対応  
をしていただきありがとうございました。来年度は松崎勉先生が鹿児島医療センターの  
副院長になり、ますます病院業務に追われることが多くなります。この鹿児島医療セン  
ター便りを書いている私も50代後半になってきており無理がきかない体になりつつあり  
ますので、今後は当院での診療を中心に行っていただく後継者育成も考えていく必要が  
あります。ということである程度長期間当院で仕事ができる方を絶賛募集中ですのでよ  
ろしくお願いします。

鹿児島医療センターでの耳鼻咽喉科の患者目標数がこれまでの実績から引き上げられ  
ることになりました。急患も含め積極的に症例は引き受けたいと思いますので、関連施  
設および紹介していただいているクリニックの先生方には気軽にご相談いただければ幸  
いです。

## 鹿児島市立病院便り

原 口 めぐみ

2023年10月より2024年3月まで半年間、勤務させていただいている原口です。2023年4月から9月まで松崎尚寛先生が就任されていまして。2024年4月から喜山先生が赴任される予定です。

こちらは近年では耳鼻科専門医取得後の医師が赴任されることが多かったのですが、山下教授より直々に半年間、後期研修医である自分が赴任するお話をいただきました。

直近の先輩方より2学年後輩で、専門医取得前という半人前にもなれていない状態で赴任することとなり、当初は大変戦々恐々としておりました。

実際の診療が始まると、治療方針に難渋する症例をいくつか経験しましたが、主治医としてできることを模索し、その都度、馬越先生、林先生、宮崎大学耳鼻咽喉科の津曲先生にご相談させていただき、助言をいただいたことで、力が及ばない場面もありましたが診療を吟味しながら勤務することが出来ました。そして何よりも外来スタッフや病棟スタッフと連携が取りやすい環境で、大変お世話になりました。

毎週開催される放射線科や口腔外科の先生方を交えての頭頸部癌カンファレンスや月1回病理部で開催される病理カンファレンスは症例の相談ができる貴重な場でした。

そして、コンサルテーションのハードルが低く、他科の先生に相談しやすい環境が非常に恵まれていて、また同時に、NICUや小児科が充実しているため、今まであまり経験してこなかったような小児症例もご紹介いただいたことで、大変勉強になることばかりでした。

近年猛威を奮ったCOVID-19の感染拡大に伴う影響は、昨年までと比較して、落ち着いてきている印象で、現時点では8階北病棟を使用できている状況です。ただ、やはり救急部・ICUには挿管後の抜管困難例での気管切開を要する患者様が複数いらっしゃったのが印象的でした。

一時的に病院全体の緊急入院数が多く、満床のため開業医の先生からのご紹介をお断りした例がありましたが、その折は大変申し訳ございませんでした。今後の更なる収束を願うばかりです。

一部の慣習は時代に合わせてアップデートしていく必要性がありますが、古くから先輩方が守られてきた地域の総合病院として役割を果たせるよう今後とも尽力いたしますので、今後とも鹿児島市立病院をよろしく願いいたします。

## 鹿児島厚生連病院便り

牧瀬 高穂

鹿児島厚生連病院の牧瀬です。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、社会活動では以前のような密度を取り戻しつつあるようです。当院でも外来や病棟の感染症対策が変更となり、日常を取り戻しつつありますが、まだまだ以前の同じ密度ではないようです。むしろ、この密度と雰囲気は今後のニューノーマルになるような気がします。さて、当院は鹿児島市内の入院が可能な耳鼻咽喉科として、地域の先生方に支えられながら患者さんのために日々診療を継続しております。特に、鼻科の手術治療に力を入れております。昨年度末で、4K手術内視鏡システム、ナビゲーションシステム、最新型マイクロデブリッターなどの内視鏡下鼻副鼻腔手術機器一式の導入が完了し、他所と遜色のない手術治療が可能となりました。先生方のお陰で紹介いただく患者さんは少しずつ増えてきました。少しでも患者さんの鼻が快適になるよう、先生方のご期待に添えるよう精進したいと存じます。鼻疾患以外でも、入院や手術が必要な患者さんに対処できるようスタッフと共に日々精進しております。当院耳鼻咽喉科は一人体制のためできることは限られますが、同門の先生方、地域の先生方にご協力をいただきつつ、今後も微力ながら地域医療に貢献していきたい所存です。

## いまきいれ総合病院便り

下 藺 知 己

いまきいれ総合病院頭頸部・耳鼻咽喉科の下藺です。2023年4月から後期研修医として1年間勤務させていただきました。また同月より久留米の聖マリア病院より永田圭先生が赴任され新体制として稼働しました。

当病院は2021年1月より上町から高麗町に病院移転し、今年で3年が経過しました。複合施設、「キラメキテラス」にもAコープやシェラトンの建設が進み、より一層、充実してきております。今年度は、研修医の先生も2人、外科系志望の先生が回ってきてくれました。山下勝教授にも研修医向けに講義をしていただいております。今後も積極的な勧誘を続けていきたいと思っております。

診療についてですが、今年も数多くの手術症例を経験しました。顕微鏡や内視鏡を用いた耳科手術、扁摘、ESS、LMS、形成外科と合同の頭頸部再建手術、内視鏡下アプロー

チの甲状腺腫瘍摘出術など、当院でしか経験できないような症例も数多くあり、たくさん執刀させていただき、大変勉強となりました。外来では、開業医の先生や他科の先生から多くの紹介をいただいております。止血困難な鼻出血、高気圧酸素療法が必要な突発性難聴、減価術適応のある顔面神経麻痺、急性喉頭蓋炎や深頸部膿瘍、扁桃周囲膿瘍などの炎症性疾患や緊急手術症例も幅広く対応しております。

この1年間、診療だけでなく学会発表や論文執筆、ハンズオンセミナーへの参加など積極的に活動することができました。バックアップをしてくださった上級医の先生方には感謝申し上げます。今年度を持ちまして、名誉院長である昇先生が当院を退任される運びとなりました。4月より竹元尊徳先生が新しく赴任されます。新体制となりますが、更なるステップアップを目指して精進していきたいと思っております。

今後とも何卒、よろしくお願い申し上げます。

## 霧島市立医師会医療センター便り

峠 早紀子

霧島市立医師会医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科の峠早紀子です。2023年4月から1年間勤務させていただきました。

当院では、毎週木曜は手術、それ以外の曜日は外来を中心に行なっています。手術は、耳科症例や再建が必要な症例等、当院での手術が難しい症例は他院へ紹介させていただきましたが、それ以外は扁桃摘出や鼻科手術を中心に、鼓膜形成術や頸部手術等、幅広い症例を経験することができました。自分が執刀医として手術することも多く、学ぶことが多かったです。外来は、霧島の開業の先生方を中心に多くの患者さんをご紹介いただきました。赴任して1年が経過しましたが、霧島の患者さんは減ることなく、鹿児島市外の耳鼻科需要を考えさせられる1年でもありました。

この1年は手術や外来、オンコール対応で大変密度の濃い時間を過ごすことができました。この経験をもとに、今後も精進していく所存です。

4月からは、原口めぐみ先生が赴任され、新体制となります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 天辰病院便り

松 元 隼 人

2023年4月に赴任し、2024年3月まで勤務させていただきました。2度目の赴任ということで気負いはあまりなかったのですが、コロナウイルスがしぶとく残る中、インフルエンザが季節を問わず猛威をふるい、隙間からはアデノウイルスと溶連菌が入り込み、とにかく感染症と戦った1年になりました。リケッチアも1例経験いたしました。私の在任中に（やっと）外来診療にバイポーラーを導入できまして、鼻出血に安心して対応できるようになったことが感無量でした。あとひとつ願いが叶うなら、内視鏡検査にNBI装置を導入したいと考えております。

これまでは、入院は「天辰病院」、外来診療は「あまたつクリニック」で行ってまいりました。2024年度からはゴールドデンウィーク頃を目途に「あまたつクリニック」が閉院となり、天辰病院（1階奥）へ引っ越しし、「天辰病院 耳鼻咽喉科」として再出発いたします。同期の久徳先生が、最後のあまたつクリニックの「院長」として気を吐いて頑張ってくれることを期待しています。

当院は入院施設を併設しておりますので、開業医の先生方からは扁桃周囲膿瘍をはじめとする感染症、突発性難聴や顔面神経麻痺の入院を数多くご紹介いただきました。2次、3次病院からは術後処置、悪性腫瘍治療前後の全身状態管理を主にご紹介いただきました。1次医療圏と2次、3次医療圏とを双方向性に橋渡しする、1.5次病院としての役割が大分確立されてきたのかなと感じます。

先生方と協力しながら、地域医療に貢献できるように精進して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## XII. 関連病院案内

(令和6年6月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
いまきいれ総合病院	890-0051	鹿児島市高麗町43-25 TEL:099-252-1090 FAX:099-203-9119	月~金 (8:30~11:30)	
霧島市立医師会 医療センター	899-5112	霧島市隼人町松永3320 TEL:0995-42-1171 FAX:0995-42-2158	月~金 (8:30~11:00)	
寺田病院	895-2513	伊佐市大口上町31-4 TEL:0995-22-1321 FAX:0995-22-2947	月・火・木・金 (9:00~17:00) 土 (9:00~12:00) 水曜日休診	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	水・金 (9:00~15:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (14:00~17:00) 土 (9:00~12:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木・金 (10:00~16:30) 月・火・水 (9:00~17:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 午前中受付	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
今村総合病院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221	火・木・土 (9:00~11:30)	
県立大島病院	894-0015	奄美市名瀬真名津町18-1 TEL:0997-52-3611	木 (10:00~17:00) 金 (8:30~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	月・水・木 (8:30~17:00) 土 (8:30~11:30)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	毎週木曜日 (8:30~16:00)	
前原総合医療病院	899-2503	日置市伊集院町妙円寺 1丁目1-6 TEL:099-273-3939 FAX:099-273-6767	月・火・水・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 濟霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkklao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成2年12月7日 ～3年12月21日 平成5年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences (ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成3年4月10日 ～9月7日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成4年5月17日 ～5年5月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成4年7月1日 ～9月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成5年8月3日 ～9月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National Universi ty 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成5年6月5日 ～6月8日 平成6年1月18日 ～3月1日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成6年3月11日 ～6月4日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成6年4月2日 ～4月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成5年1月25日 ～平成9年3月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成6年4月4日 ～7年6月13日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成6年10月3日 ～11年3月31日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成8年1月25日 ～8年12月30日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年3月23日～H13.9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年4月2日～H17.3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月1日 ～H21年2月13日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在局期間
西 宜 行	研 修 生	59. 4 -59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4 -60. 6 61. 1 -61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4 -62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4 -63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63. 10-63. 12
三 角 芳 文	研 修 生	63. 10-63. 12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H 2. 7 -H 2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H 2. 10-H 2. 12
宮 原 広 典	研 修 生	H 3. 1 -H 3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H 5. 7 -H 5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
的 場 康 平	研 修 生	H 7. 1 -H 7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H 7. 10-H 7. 12
泊 口 哲 也	研 修 生	H 8. 1 -H 8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H 8. 7 -H 8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H 8. 10-H 8. 12 H 9. 4 -H 9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H 9. 1 -H 9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10. 4 -H10. 6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11. 1 -H11. 3
横 山 孝 二	研 修 生	H11. 4 -H11. 6

氏 名	最終職別	在局期間
田 中 裕 之	研 修 生	H11. 7 - H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13. 6 - H13. 12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15. 1 - H15. 3

## 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

### (総則)

- 第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。
- 第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

### (目的ならびに事業)

- 第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 同門会総会の開催
  2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
  3. 記念事業の開催
  4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### (会則)

- 第5条 本会は会員を次のとおりとする。  
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。
- 第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）
- 第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。
- 第8条 会員は希望により退会することができる。
- 第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

### (役員)

- 第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。  
なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。名誉会長は原則として会長通算2期6年以上務めた者で、年齢70歳以上を推薦の必要条件とする。
- 第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

- 第12条 役員改選時，（旧）役員会は（新）会長候補を決定し，総会での承認を経て新会長が選出される
- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し，会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し，会長がこれを委嘱する。  
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。  
（会議）
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。総会は総会員の過半数の出席をもって成立し，委任状提出者は出席とみなす。  
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し，事業計画，経理その他重要な事項を審議する。  
（会則の変更）
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て，変更することができる。

## 附記

本会則は平成22年1月17日より施行する。

本会則は令和4年（2022年）1月15日から施行実施する（第18条）

## ●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

『さくらじま』の最終校正が大詰めを迎えるのは例年6月の梅雨の時期になります。

雨の降りしきる日々が続きますが、合間に訪れる東の間の澄みわたった青空には言ひしれぬ爽やかさを感じます。雨に洗われた空気とその隙間に溶け込んだ青葉の香りに身を包まれるとき、不思議と思い出す詩があります。茨城のり子さんの『六月』です。実りある理想の世界を希求する問いかけが続くこの詩には、不思議とあらゆる感情が開放されるような爽快感があります。それとともに、日々を精一杯生きようという作者の強い思いや覚悟を感じずにはいられません。雨上がりの空に浮かぶ無数の細かい水滴の一つひとつのように、日々の活動は教室の長い歴史においてはささやかなものなのかもしれません。しかしながら、水滴の集まりをある角度からある距離をとって眺めると虹となって見えるように、日々の活動も心を込めて行った人々の前にはやがて七色の虹として浮かび上がってくるものだと思います。

今年は大原章裕先生、藤崎亮先生、矢野雅己先生の3人が新たに当教室に加わってくれました。皆のそれぞれの思いとともに、一緒に素敵な虹を眺める日が来ることを楽しみにしています。

同門会および地方部会の先生方におかれましては、日頃より多大なるご支援をいただき誠に有難うございます。同門会のホームページには、本誌『さくらじま』の創刊号から第37号までの全てが掲載されておりますので、お時間のある時にご覧いただけますと幸いです。

教室が益々発展するとともに、本誌が末永く続きますよう今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

(文責：川島雅樹)

令和6年 水無月の晴れ間に  
編集長(医局長) 川島雅樹  
編集委員 安藤由実  
大夫堀昌子

### さくらじま 第38号

令和6年7月11日 印刷  
令和6年7月18日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室  
電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社  
電話 (099) 268-8211

